

2時間かかっていた業務が 15分に短縮

総合水処理メーカーとして世界トップクラスの技術を誇るオルガノ株式会社様。日経スマートクリップplusを導入したことで幅広いジャンルの情報をいち早く入手できるようになり、社員間で

情報を“必要な時に即時共有”することに成功。現在は管理職の利用が中心だが、今後はより広範な社員に向けての配信も視野に入れ、情報共有をより強化していこうとしている。

オルガノ株式会社様 / 事業内容：水処理関連装置、プラントの設計、施工、管理

導入サービス：日経スマートクリップplus

日本経済新聞社とELNETとのコラボレーションサービスで、日経各紙以外のコンテンツは、ELNETモーニングクリッピングからの提供となります

導入のきっかけ

トライアルで分かった
情報配信サービスの精度の高さ。
クリッピング作業の課題であった
「人手による作業負担」
「コンプライアンス上のリスク」
も同時にクリア。

世界トップクラスの高度な水処理技術を駆使し、超純水・純水・水道水・産業排水・下水など、幅広い産業用

水処理装置の製造・販売を手掛けているオルガノ株式会社様。半導体の製造工場をはじめ、日本が誇る“ものづくり”に関わる産業全般を、高水準の技術でサポートしている。業界は多岐にわたり、企業によって求める水の量・質は実に様々。要望に沿った水処理設備を提案するためにはクライアントが所属する会社の投資予定や工場の操業度、業界全体の見通し、さらに競合

オルガノ株式会社様

経営統括本部経営企画部
CSR リーダー

七海 匠氏

他社動向の情報はとても重要だという。

しかしながら、加速度的に時代が変化していくなか、様々なジャンルの情報収集を人手で行うのはとても骨が折れる作業だ。その負担の大きさについて、経営統括本部経営企画部 CSR リーダーの七海匠氏は語る。「当社では人手によるクリッピング作業を約 2 時間かけて行っていました。始業開始時間が 9 時なので、それに間に合うよう、毎朝 7 時前から作業当番が 2 名で一般紙、専門紙などを 7 紙程度チェックし、切り抜き。できあがったものを回覧するのですが、情報をまとめて共有するまでに時間も手間もとてもかかっていました。この負担も大きいですが、さらに、人手によるクリッピングの場合、コンプライアンス上のリスクもありました。新聞の紙面が手元にあってすぐ近くにコピー機があれば、人間誰しもコピーしたいという迷いがでてしまう。それらを全て管理しきれんかという悩みを持ちつつというのが実状でした」。人手によるクリッピングは、「作業負担の大きさ」「コンプライアンス上のリスク」の 2 点が課題としてあった。

そこで、クリッピング作業の効率化

の手段として、配信サービスを検討することに。日経スマートクリップ plus のフリートライアルを試してみたところ、記事選択の的確さに良い感触を得たという。「以前、ほかのクリッピングサービスも試したことがあったのですが、必要な情報と不要な情報が混在しており、使いにくかったのです。不要な情報が多いと情報が希釈されて、本当に必要な情報が見つけ難くなってしまいます。しかし、日経スマートクリップ plus は、必要な情報が得られる、かつ、不要な情報が紛れ込まないという点が優れていました。著作権対応リスクもクリアされており、高精度の情報を合理的に収集できる点が、導入の決め手となりました」。

導入の効果

“必要な情報が必要な人に即時に届く”から、作業効率が大幅にアップ。クオリティの安定した高精度の情報配信サービスで、社内の情報格差を平準化

日経スマートクリップ plus が業務効率化に役立つことを実感し、導入にいたったオルガノ株式会社様。現在は 1 人 15 分の作業でクリッピング業務が



オルガノ株式会社様が手がける水処理プラント

完結し、業務効率化が実現できたという。「経営企画部でキーワードを設定し、弊社にとって重要と思われるものに絞って情報を配信してもらっています。日々利用しながら感じるのは、記事情報の検索キーワードとの整合性、レベル感が一致しているということ。人手のクリッピング作業だと、担当者によって集める情報にばらつきがどうしても出てしまいます。実際、ある人は重要だと感じる内容が、違う人ではスルーされてしまった、逆に特定の分野だけが多いということもありました。人が行うからこそ生じる“作業むら”による記事の抜けや漏れ、過剰が解消されました」と語る七海氏。

また、モバイル端末やアプリでサービスを利用できるように設定にしたことも、作業効率の向上に大きく貢献している。毎朝 7 時 20 分に一斉配信された記事を通勤中にスマホで閲覧できるので、出社後すぐに業務に取り掛かれるようになった。さらに、クリッピングされたものを回覧していた際は、社内会議に出席するまでに閲覧できない人も出てしまい、記事を読んでいる人とそうでない人で話がかみ合わないこともあったという。現在は通勤中に記事をチェックできない場合でも出社後すぐに閲覧が完了するため、関係者ほぼ全員が同一の情報を共有して会議に臨んでいるので進行がスムーズになったとい

う。また、新聞で掲載された社長の年頭の挨拶も、自社情報として配信される。「グループ会社社員に配布するグループ報で紹介していますが、新聞記事のほうがエッセンスをコンパクトにまとめていて分かりやすいという評判も聞きます」と七海氏。必要な人に必要な情報が即時届くこのサービスは、社内の情報格差の平準化に大きく寄与しているという。

今後の展望

日経スマートクリップplusを活用し、ビジネスに直結した情報も入手。変化の激しい時代だからこそ情報を先取りし、タイムリーに生かしたい。

社内の情報格差の緩和につながった日経スマートクリップ plus の導入。オルガノ株式会社様では現在、部門長をメインに配信しているが、将来的には一般社員にも配信を広げ、社内における認識格差をなくし、さらなる情報の共有化を目指していきたいという。「現

在は経営企画部でキーワードを設定していますが、いずれは事業部等の部門ごとに設定して、各所ごとに専用の情報を配信することも想定しています。よりビジネスに直結した情報が得られるようになるのではないのでしょうか」と七海氏。さらに、日経スマートクリップ plus の導入をこれから考えている企業に対しても、経験を踏まえアドバイスしてくれた。「いろいろなサービスがあると思いますが、“使用目的”と、“何に対して使いたいのか”ということに合致したものを選ぶのが一番だと思います。配信後の操作性や閲覧性、例えば記事印刷レイアウトや図表表示の有無なども含め、実際に使ってみて、しっかり見極めることをおすすめいたします」。



日経スマートクリップでクリッピング業務を効率化



POINT 1

クリッピング業務が1日15分で完結

日経スマートクリップ導入で、クリッピング業務の大幅な時短を実現。

POINT 2

“作業むら”による記事の抜け漏れの解消

クリッピング精度に優れ、人手による切り抜きで発生する記事の抜け漏れを解消。

POINT 3

著作権侵害のリスクを避ける

新聞紙面のコピー、回覧などで発生するコンプライアンス上のリスクを避ける。

日経スマートクリップ



0120-751-202

株式会社日本経済新聞社デジタルサービス法人デスク

(平日 9:30-17:30)

<http://telecom.nikkei.co.jp/guide/relevance/smart/>